広島文教大学附属高等学校だより【保護者の皆様へ】7

2025 年 8 月 20 日

校長　岡 利道

部活動 点描 ～硬式テニス部～

体育系が続くことになりますが、今回取り上げるのは硬式テニス部さんです。今年４月に産声を上げました。現時点で、顧問２名（本校教員１名・外部コーチ１名）、部員５名（３年１名・１年４名）です。部員は、少し前に体験希望者もあり、今後はもう少し増える可能性があるそうです。

主要な大会結果ですが、５月 31 日㈯・６月１日㈰に行われた令和７年度・第 78 回広島県高等学校総合体育大会のテニス競技部門にフォーカスしましょう。女子団体の部では、ベスト 16 入りを果たしました。岡田さん・小笹さん・上瀬さん・稲村さん・後藤さんの各選手です。個人の部女子シングルスでは堂々のベスト８入り、最終的に７位となったのは小笹選手です。顧問の北垣内志帆（きたがいちしほ）教諭、シャノン・マーシャル教諭、阿部直樹コーチによる指導があったからこそですね。以下、北垣内教諭とのやり取りです。

Ｑ：１年生を中心とした若いチームですよね。大会を振り返って、今はどんなお気持ちですか？

Ａ：本校の硬式テニス部として初めての団体戦に出場できたことを、まずは本当に嬉しく思います。特に、３年生からテニスを始め、一緒にコートに立ってくれた岡田選手には感謝しきれません。また、選手たちが県総体地区大会から大きな成長を見せてくれた県総体となり、本当に嬉しかったです。

Ｑ：団体戦もさることながら、個人戦も手応えがあったのではないですか？

Ａ：小笹選手の個人戦シングルでは、前の月に別の大会で敗退をした選手に勝利をすることができ、同時に中国総体の切符を手にし、私自身も自分のことのように嬉しく感じました。

Ｑ：選手たちはどんな話をしていましたか？

Ａ：一番印象に残っていることは、「今年が１年目。私たちが始めたことが文教テニス

部の伝統になる！」とつぶやいていた姿です。私は、まさにその伝統となる行動やプレーひとつひとつに責任を持っている生徒たちの姿を、いちばん近くで見ることができています。

Ｑ：選手と一心同体のようになっているということですか？

Ａ：そうですね。ただ、1 年目ではありますが、まだまだ続いていきます。今年は何事も挑戦だと思います。様々なことに生徒と共に挑戦をし、成長していけたらと思います。

Ｑ：素晴らしいですね。では、最後に今後の抱負をお願いします。

Ａ：文教硬式テニス部は、スタートラインに立ったところです。これからの頑張りや活動をたくさんの人に見てもらい、たくさんの方に応援していただけるようなテニス部にしていきたいです。

　ところで、本校硬式テニス部さんは、練習試合のオファーがひっきりなしに来るほどですが、その忙しい合間を縫って、７月 12 日㈯と 13 日㈰の両日にわたり、「世界とつながる一歩！　キッズ＆ジュニアテニスフェス＠ 広島文教大学附属高等学校」を開催しました。全体で、参加した幼児・児童・生徒が 50 名以上、保護者は 100 名以上という盛況ぶりでした。照り付ける日差しが厳しい中、熱中症対策を講じて、全日程が終了しました。阿部コーチはこの面でもキャリア豊富ですので、適切にご指導ご助言をいただいたことが大きな追い風になりました。

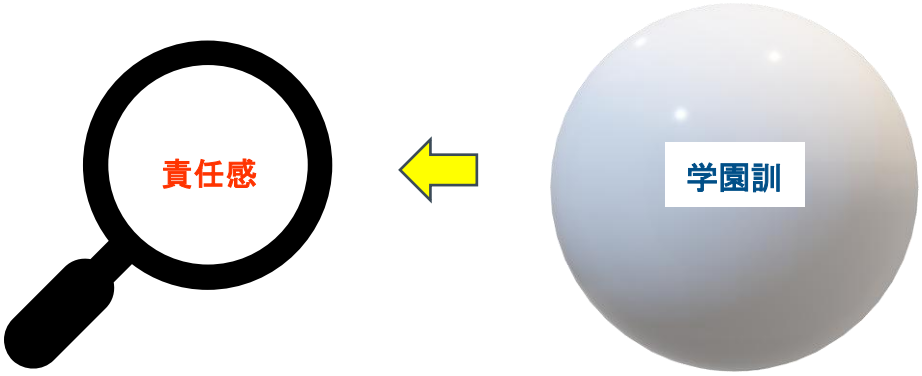
岡は、初日に様子を見せてもらいました。予想はしていましたが、時間がたつにつれ、気温がぐんぐん上がっていきました。事前の広報活動が実り、多くの子どもたち、そして保護者の方々が、新テニスコートに来てくださいました。先生も生徒も大忙し。このような状況の中でベストを尽くす経験は、きっと生きた力になるだろうなぁと感じました。

あとで北垣内教諭に聞いたところ、やはり遮熱対策にいちばん気をつかったとのこと。次回に向けては、涼しい時期での開催を考えたいと話されていました。上の写真にもあるように、テニスを初めてするお子さんも多く、テニスの楽しさを伝えられたのが何よりだったと振り返ります。北垣内教諭は、次のようにも付け加えをされました。「小さな子にとってはただボールで『遊ぶ』だったかもしれません。その『遊ぶ』から『できた！』『楽しかった！』につながって、テニスを好きになっていくと思います。」なるほど！

生徒たちはと言いますと、二日間にわたって多様な年代の方々をお迎えし、相手に楽しんでもらうように努めていたわけですから、出てきた言葉は、「とっても疲れた！」でした。それはそうですね。しかし、私が見る限り、テニス部員たちは終始笑顔で、誉め言葉を連発していました。この調子でおもてなしの心やボランティア・マインドを育て、素晴らしいテニスプレイヤーになっていかれることでしょう。

学園訓について考えてみませんか？　～責任感を育てるとは～

私たちは誰しも「責任感」を持った人になりたいわけですし、私たちの学園訓の二つ目にも、「責任感の強い逞しい実践力のある人になりましょう」が位置づいています。ここでは、その「責任感」という言葉にスポットを当て、大切さを考えてみたく思います。



「責任感」とは、「自身がすることに責任を果たそうという思い」ですね。ただ、私たちの学園訓は、「教育基本法」の精神を大事にしていますので、その「第１条（教育の目

的)」である「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」に戻らねばなりません。これを踏まえて、「第２条（教育の目標)」に目を向けましょう。

> 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。
>
> 一　幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
>
> 二　個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
>
> 三　正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
>
> 四　生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
>
> 五　伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

上記の三番の項目に黄で色づけしたように、「責任」の言葉が出てきます。「責任」という言葉は、レスポンシビリティ（responsibility)」という英語から来たものです。レスポンス（response、応答）するアビリティ（ability、能力)、それが「責任」です。

何にレスポンスするのでしょうか。それは、他人とか環境、社会の負託に対してです。個人が社会に感応して生きているという考え方ですね。世のため、人のために尽くそうとして生きること。これからの将来を考えると、「地球」とか「人類」へのレスポンスが大事だということになると思います。「人類」へのレスポンスを個人の倫理にしていくのが私たちの課題であると言えるでしょう。このような意味での「責任」→「責任感」を育てるために、私たちは本校での多様な教育活動を用意しております。集会の際、皆で学園訓を唱和するのですが、このような背景があることをご理解いただければと思います。

今回も最後までお読みいただき、本当にありがとうございました。暑さにはくれぐれもお気をつけください。